



公益社団法人日本歯科先端研究所

近畿・北陸地区 学術講演会

『一般開業医における Intoraoral scanner を用いた臨床』
“補綴装置製作からデジタルコミュニケーション”

日時 2022年11月13日(日) 会場

10:00 ~ 13:00

大阪市中央区南船場4-4-21

TODA BUILDING 心齋橋 6F

アットビジネスセンター心齋橋駅前 604号室

会費 無料

講師 小池 軍平 先生

【略歴】

- 1971年 神奈川県横須賀市出身
- 1996年 神奈川歯科大学卒業
- 1997年 神奈川歯科大学附属大学院 口腔外科学第一講座 入学
- 1997年 小池歯科医院開設
- 2008年 神奈川歯科大学 咀嚼機能制御学講座 非常勤講師

【所属学会】

日本デジタル歯科学会 理事



光学式スキャナ(以下、IOS(Intoraoral scanner/IOS)を持つCAD/CAM装置の国内導入から25年近くが経過し、当初の活用法は保存修復の製作に特化しており、その後クラウンなど補綴装置へと移行し、新たな材料の導入とともに活用の幅を広げていった。また、CTや3Dプリンターとの連携に伴ってインプラント治療への応用、口腔内情報を瞬時にデジタル化することにより、アライナー矯正など多岐にわたる用途に活用されるに至った。

しかし、そのユニークなIOSの発想は当初コンサバティブな日本の歯科業界には到底受け入れられることもなく、一部のマニアの機械と軽く扱われていたことは否めない。

さて、保険診療に目を向けてみると、IOSの保険収載は今回は見送られたが、CAD/CAM装置で製作された補綴装置が積極的に導入され、2014年よりCAD/CAM冠が小白歯に適応になり、歯科用金属の高騰も相まって、大白歯、前歯と続々と導入され、2022年4月にはCAD/CAMインレーが導入された。今後、保険収載が期待されるIOSではあるが、一般的にそのシステムは高額であり一般診療所での導入へのハードルは依然として高い。

しかしながら、最新のIOSは容易に口腔内情報をデジタル化することが可能であるため、当医院では歯科医師ばかりでなく、歯科衛生士の活用を積極的に行っている。

今回は導入より20年の臨床経験を元に、補綴装置からデジタルコミュニケーションツールとしての活用法を供覧したい。

学術講演会ご参加申し込み書

* 下記参加申込書にご記入の上、FAXでお送りください。

(フリガナ ローマ字)
ご参加者名

ご住所

E-Mail

貴院名

TEL

FAX

日本歯科先端研究所
近畿・北陸地区(担当 村田)

FAX 072-222-8447 TEL 072-223-8776